

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月25日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520543

研究課題名（和文）三言語（日本語・韓国語・中国語）同時学習支援に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Simultaneous Trilingual (Japanese・Korean・Chinese Languages) Learning Support

## 研究代表者

長友 和彦（NAGATOMO KAZUHIKO）

宮崎大学・教育文化学部・教授

研究者番号：60164448

研究成果の概要（和文）：日本・韓国・中国・台湾の教育研究機関・関係者と連携して研究を進めた結果、（1）三言語（日本語・韓国語・中国語）同時学習支援を支える三言語習得論・多言語多文化同時学習支援論・多文化共生論等の理論、（2）それぞれの国・地域における三言語及び多言語多文化同時学習支援に関わるさまざまな実践例、（3）三言語同時学習や多言語多文化同時学習支援のシラバスのあり方やその支援者・推進者の役割のあり方、等についての知見が得られた。

研究成果の概要（英文）：A research on Simultaneous Trilingual (Japanese・Korean・Chinese Languages) Learning Support has been conducted in cooperation with institutions and researchers in Japan, Korea, China and Taiwan. As results, (1) such theories as trilingualism, simultaneous multilingual and multicultural learning support and multicultural coexistence have been further developed, (2) actual programs in East Asian countries related to the theories have been carried out and (3) new knowledge about syllabuses and the role of a program supporter/facilitator has been obtained.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本語教育

キーワード：多言語多文化同時学習支援、三言語習得、多言語習得、マルチリンガリズム、東アジアのコミュニケーション基盤

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究が目指す三言語（日本語・韓国語・中国語）同時学習支援に関わる研究・開発は、国内外においてほとんど見られない。

(2) 平成16-18年度基盤研究(B)「多言語」併用環境における日本語の習得、教育、及び支

援に関する研究」等に取り組んできたが、国内での事例研究の域を出ず、東アジア全体を見渡した三言語同時学習支援という視点は持ち得なかった。

## 2. 研究の目的

(1) 日本語・韓国語・中国語を共通語とする

東アジアのコミュニケーション基盤の構築に寄与するために、多角的な観点から三言語（日本語・韓国語・中国語）同時学習支援の研究・開発に着手する。

(2) 三言語同時学習支援という観点から日本語教員養成を捉え直し、その教育内容についての提言を行う。

### 3. 研究の方法

(1) 国内、及び韓国・中国・台湾の教育研究機関・関係者と協力・連携して本研究の遂行に必要な共同研究体制を組む。

(2) 本研究に関わる研究者の専門を活かして次のような学際的課題と取り組む。

- ① 三言語（日本語・韓国語・中国語）同時学習支援の理論、特に、三言語（多言語）習得論、マルチリンガリズム、多文化共生論、多言語教育論の構築。
- ② 三言語同時学習支援のシラバス、教材、教授法等の具体的な検討。
- ③ 三言語同時学習支援者養成（本研究では日本語教員養成に限定）の教育内容の探究。

(3) 宮崎大学及び関係教育研究機関において、三言語同時学習支援プログラムを試行的に実施し、データの蓄積と分析を行う。

(4) 本研究に関連した学会やシンポジウム等で中間成果発表を行うと共に、最終的には関係教育研究機関の研究者が集う国際シンポジウムを開催して、成果を公表する。また、マルチリンガリズム研究会（Japanese Association of Multilingualism）のホームページでも成果を公開する。

### 4. 研究成果

(1) 東アジアの教育研究機関（韓国の順天大学校・釜山外国語大学高、中国の南京農業大学・北京大学、台湾の国立政治大学・東呉大学・静宜大学、国内の宮崎大学・お茶の水女子大学・放送大学）の関係者の賛同と協力を得て、本研究を進めることができた。

(2) 三言語同時学習支援論とそれを発展させた多言語多文化同時学習支援論について次のような知見が得られた。

- ① 三言語あるいは多言語多文化同時学習支援は、多言語（母語を含む三言語以上）の習得と、それを包摂する多文化の学習と理解が同時に進むことを目指す。

次のような点から考えて、「逐次／順次」習得より「同時」習得を目指す方が望ましい。

- ② 全体論的な多言語習得・マルチリンガリズムでは、相互に関係付けられた複数の言語体系が、独立しながらも不可分の「一つのシステム」として習得されると考えられており、多言語習得においては、その「一つのシステム」が習得されていく中で、必然的にそのシステムを構成する多言語が同時に習得されると考えられる。
- ③ 逐次や順次習得では言語保持が難しく、言語摩滅・喪失を招き易いが、同時習得は、多言語の保持に役立ち、言語摩滅や喪失を食い止める力にもなる。つまり、多言語習得の根幹に関わる言語保持や言語喪失において、同時習得の方がそれに優位に対処できる。

東アジアにおいては、特に次のような点において、同時習得を目指す方が望ましいと考えられる。

- ④ 言語類型論の観点において、構造的には日本語韓国語が近似体系にあり、日本語・韓国語・中国語・台湾語にはトピック・コメント言語としての共通点がある。また、漢字圏の言語として根底に漢字語彙が共有されている。つまり、類型論的な観点からも四言語の関係性は強く、同時習得に有利な条件が整っている。
- ⑤ 日本・韓国・中国・台湾は、その歴史的にも文化的にも関係性が深く、この歴史的文化的関係性は、多言語の同時習得に適した歴史的文化的社会環境を育んでいる。
- ⑥ 逐次／順次的言語教育は歴史的に失敗を重ねており、現在は多言語同時習得を目指す時代に入っている。
- ⑦ 同時というのは時間的であると同時に認知的な概念であり、多言語多文化同時学習支援は、多言語を同時に比較して認知できる人間のメタ言語能力を常に活性化された状態にしておこうとするものであるが、その親近さにおいて、東アジアの諸言語はメタ言語として相互に同時に認知され易いと考えられる。

(3) Nagatomo (2010) や長友 (2009, 2010) において、家庭や学校や地域社会が多言語環境にあれば、多言語同時習得も可能であることを事例研究で示し、それを説明するモデルとして「ダイナミックモデル」や「教的モデル」が提示された。

(4) 多言語多文化同時学習支援は、母語と母文化の教え合い、学び合いを通して、学習者が新たな自己を認識し、より解放された人間としての自己を実現することを目指しており、現代における新たな学習者（＝ピア）主

体の言語教育論である。また、支援者あるいは推進者として多言語多文化同時学習支援のできる言語教育者を養成しようとする教師養成論でもある。

(5) 母語習得期を過ぎた学習者対象の多言語多文化同時学習支援シラバス論の要は、学習者がメタ言語能力を十分に発揮できるようなシラバスをデザインすることであると考えられる。母語・母文化が鏡となって、母語・母文化を含む多言語多文化間の類似点や違いに学習者が気付き、それを認識できるようなシラバス・デザインのあり方である。

実際には、お茶の水女子大学主導の「多文化・多言語サイバーコンソーシアム」(森山、2012)、釜山外国語大学の「多言語 tandem」(鄭、2012)、宮崎大学の「多言語多文化同時学習支援」(永射、2012)、順天大学の「ピアチューターリング」(朴、2012)のような実践研究の中から、多言語多文化同時学習支援シラバスが次第に具現化され、洗練されていくことが期待される。

(6) 多言語多文化同時学習支援は、各教育研究機関において、あるいは国の言語政策として制度化されていく必要がある。次のような国際シンポジウムを開催して本研究の成果を発表し、それを運動として牽引した。

- ① 「全球化下多語言同歩學習之環境與政策・International Conference on the Environments and Policies of Learning Multiple Languages Simultaneously in the Age of Globalization・グローバル化時代における多言語同時学習環境及び政策」国際研討會(国立政治大学主催・宮崎大学共催、2009年12月)
- ② 「2011年多語言多文化同歩教／學國際學術研討會・多言語多文化同時学習支援国際シンポジウム」(東呉大学主催・宮崎大学共催、2011年3月)
- ③ 2011国際シンポジウム「多言語多文化同時学習支援」(宮崎大学・JAPANESE ASSOCIATION OF MULTILINGUALISM 主催、2011年12月)

(7) 本研究の成果は、次のような報告書にまとめると共に、マルチリンガリズム研究会・Japanese Association of Multilingualismのホームページでも公開した。

(<http://jsl-server.li.ocha.ac.jp/jaom/>)

- ① 三言語(日本語・韓国語・中国語)同時学習支援に関する研究、平成21-23年度科学研究費補助金・基盤研究(C)・課題

番号21520543(研究代表者・長友和彦)報告書、宮崎大学教育文化学部、2012年3月、i-xvii、1-211

- ② 2011国際シンポジウム・多言語多文化同時学習支援—東アジアのコミュニケーション基盤の確立へ向けて—報告書、宮崎大学国際連携センター・Japanese Association of Multilingualism、2012年3月、i-vii、1-211
- ③ 三言語(日本語・韓国語・中国語)同時学習支援に関する研究、平成21-23年度科学研究費補助金・基盤研究(C)・課題番号21520543(研究代表者・長友和彦)1年次報告書、宮崎大学教育文化学部、査読無、2010年3月、i-ii、1-63

(8) 三言語(日本語・韓国語・中国語)同時学習支援、あるいは多言語多文化同時学習支援という本研究には次のような意義があることが確認された。

- ① 新たな研究領域とそれを結びつける学際的領域を開拓、発展させていく原動力になる。「多言語多文化同時学習支援」は、これまでの個別言語研究、対照研究、第二言語習得研究などに加えて、多言語間対照研究、多言語習得研究、多文化共生研究、多言語教育政策研究等とその横断的な学際的領域を開拓、発展させていく力になり得る。
- ② 言語教育全般を見渡した日本語教育研究の新展開に寄与し、日本語教育、日本語教員養成の教育内容についての新たな知見が得られる。
- ③ 日本語教育と他の言語教育がその壁を越えて連携し、協働して言語教育に取り組むことで、言語教育全般の新たな進展が期待できる。
- ④ グローバル・コミュニケーション、特に東アジアのコミュニケーション基盤の構築とそれを支える人材、即ち、次世代の育成に寄与する。
- ⑤ 東アジア諸国・地域の歴史や文化の独自性や類似性についての相互理解、人物・文化交流の促進、経済圏の確立、ひいては平和の樹立に貢献できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

- ① 長友和彦、多言語多文化同時学習支援論、2011 国際シンポジウム・多言語多文化同時学習支援—東アジアのコミュニケーション基盤の確立へ向けて—報告書、宮崎大学国際連携センター・Japanese Association of Multilingualism、査読無、2012、175-183
- ② 井上修一、多言語多文化同時学習支援と複言語主義、2011 国際シンポジウム・多言語多文化同時学習支援—東アジアのコミュニケーション基盤の確立へ向けて—報告書、宮崎大学国際連携センター・Japanese Association of Multilingualism、査読無、2012、125-135
- ③ 平瀬清、多言語多文化同時学習支援における英語の役割、2011 国際シンポジウム・多言語多文化同時学習支援—東アジアのコミュニケーション基盤の確立へ向けて—報告書、宮崎大学国際連携センター・Japanese Association of Multilingualism、査読無、2012、136-142
- ④ 長友和彦、多言語多文化同時学習支援という新たな展開、2011 年多語言多文化同歩教／學國際學術研討會大會手冊、東吳大學外國語文學院、査読無、2011、9-18
- ⑤ 井上修一、多言語多文化同時学習支援から見た東アジアと EU、2011 年多語言多文化同歩教／學國際學術研討會大會手冊、東吳大學外國語文學院、査読無、2011、43-46
- ⑥ 平瀬清、Why English?、2011 年多語言多文化同歩教／學國際學術研討會大會手冊、東吳大學外國語文學院、査読無、2011、47-55
- ⑦ 長友和彦、日本語教育と多言語同時学習支援、2010 世界日語教育大會基調講演等予稿集、国立政治大学外国語文學院・国立政治大学日本語文学系・台湾日語教育学会・台湾日本語文学会、査読無、2010、38-47
- ⑧ Nagatomo, K.、Simultaneous Multilingual Language Learning Support、三言語（日本語・韓国語・中国語）同時学習支援に関する研究、平成 21-23 年度科学研究費補助金・基盤研究 (C)・課題番号 21520543 (研究代表者・長友和彦) 1 年次報告書、宮崎大学教育文化学部、査読無、2010、1-8

[学会発表] (計4件)

- ① 長友和彦、多言語多文化同時学習支援論、2011 国際シンポジウム・多言語多文化同

時学習支援—東アジアのコミュニケーション基盤の確立へ向けて—、宮崎大学国際連携センター・Japanese Association of Multilingualism、2011 年 12 月 17 日

- ② 長友和彦、多言語多文化同時学習支援という新たな展開、2011 年多語言多文化同歩教／學國際學術研討會大會、東吳大學外國語文學院、2011 年 3 月 27 日
- ③ 長友和彦、日本語教育と多言語同時学習支援、2010 世界日語教育大會、国立政治大学外国語文學院・国立政治大学日本語文学系・台湾日語教育学会・台湾日本語文学会、2010 年 7 月 31 日  
1-8
- ④ Nagatomo, K.、Simultaneous Multilingual Language Learning Support、全球化下多語言同歩學習之環境與政策國際研討會、國立政治大學外語學院・教育部北區大學外文中心、2009 年 12 月 5 日

[図書] (計3件)

- ① 三言語（日本語・韓国語・中国語）同時学習支援に関する研究、平成 21-23 年度科学研究費補助金・基盤研究 (C)・課題番号 21520543 (研究代表者・長友和彦) 報告書、宮崎大学教育文化学部、2012 年 3 月、i-xvii、1-211
- ② 2011 国際シンポジウム・多言語多文化同時学習支援—東アジアのコミュニケーション基盤の確立へ向けて—報告書、宮崎大学国際連携センター・Japanese Association of Multilingualism、2012 年 3 月、i-vii、1-211 全
- ③ 三言語（日本語・韓国語・中国語）同時学習支援に関する研究、平成 21-23 年度科学研究費補助金・基盤研究 (C)・課題番号 21520543 (研究代表者・長友和彦) 1 年次報告書、宮崎大学教育文化学部、査読無、2010 年 3 月、i-ii、1-63

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：

権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
<http://jsl-server.li.ocha.ac.jp/jaom/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

長友 和彦 (NAGATOMO KAZUHIKO)  
宮崎大学・教育文化学部・教授  
研究者番号：60164448

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

井上 修一 (INOUE SHUICHI)  
宮崎大学・教育文化学部・准教授  
研究者番号：80041028

平瀬 清 (HIRASE KIYOSHI)  
宮崎大学・教育文化学部・准教授  
研究者番号：20041046